

保証書

「メディエアスカイ」

商品名・型番

Medi-Air Sky ・ Y-MS390Medi-Air Sky ・ Y-MS340Medi-Air Sky ・ Y-MS315

お買い上げ日

西暦年 月 日

保証期間

お買い上げ日から3年間

お客様

お名前

ふりがな電話番号

〒

ご住所

販売店

この度は当社製品をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

この保証書は、本書記載事項に則り、上記に記載された製品の保証をさせていただくこととお約束するものです。本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。お買い上げ日、販売店名の記載がないものは、保証期間内であっても、保証の対象にならない場合があります。必ず、お買い上げ販売店にお申し出いただき、記入してください。

この保証は、日本国内のみ有効です。This warranty policy is valid only in Japan.

お客様の個人情報、製品のアフターサービスを利用目的としており、取扱に際しては、厳正な管理を行なっております。

■お問い合わせ窓口
横浜ゴムMBジャパン株式会社
〒141-0031 東京都品川区西五反田7丁目20番9号
TEL:03-5745-9862(受付時間10:00~17:00、土・日・祝日・弊社休業日を除く。) FAX:03-5745-9867
ホームページ <http://www.yrc.co.jp/medi-air/>
©THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD. 2012年5月発行 取扱説明書 No. KI-003 PSN XXX YRC ASC

Medi-Air Sky

底付手前検知機能付エアーセルクッション メディエアスカイ 取扱説明書 兼 保証書

ご使用前に

この度は、底付手前検知機能付エアーセルクッション「メディエアスカイ」をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用の前に必ず本書をお読みになり、正しい方法でご使用ください。本品を貸与または譲渡する場合は、本書を添付してください。「取扱説明書」は、いつでも見られるように大切に保管してください。

底付検知お知らせブザー音について

この製品は、今までにない底付手前を検知するとブザーでお知らせする機能が付いています。特に、体幹の動き、坐骨や仙骨、大転子等の状態により、ご利用者様の想定よりもブザーが鳴ることがあることをご理解いただきますようお願いいたします。ブザー音が鳴った場合には、専用ポンプで空気を入れる、またはプッシュアップ等を行い座面臀部の圧力を開放するなどして、再度空気量の調整を行ってください。本製品の最大の目的は、底付きをさせないことを第一に設計しています。

ブザー音を止めたい場合は、クッションご利用者様または管理者様の判断により、クッション前面にあります底付手前検知音 入・切スイッチによりブザー音を消音してください。但し、少なくとも半日に一回は(個人差があります)スイッチをONにして、空気量の調整を行うことをお勧めいたします。

補足

座位姿勢は変化します。最初に空気量をセッティングしても姿勢の変化によって座位が変わり、底付検知をしてブザーが鳴る場合があります。写真のように、骨盤が垂直に立った姿勢で空気調整し、時間経過と共に骨盤が後傾等になった場合、底付手前センサーが働き、ブザーがなる場合があります。このときは、プッシュアップや姿勢の変換、空気の調整を行ってください。

座った時の骨盤を横から見たイメージ図

⚠ 注意

本書では、説明のために専用布カバーを未装着状態にしていますが、実際に使用される場合は必ず専用布カバーを装着してご使用ください。専用布カバーを使用しないと十分な機能を得られません。また、専用布カバーの上にタオル等を敷きますと、床ずれ防止効果を低下させますので、ご注意ください。

エアーセルの根本を持つと、エアーセルが外れる場合があります。10ページ「7-2 エアーセル取付け方法」に従い、取付けてください。

目次

1. セット内容	P. 3
2. クッションの設置及び向き	P. 4
3. 電池	P. 5
4. 手動ポンプ及び接続カプラー	P. 5
5. 底付手前検知	P. 6
6. 使用方法(空気調整方法)	P. 7
7. お手入れ方法	P. 9
8. 保管方法	P.11
9. 故障かなと思ったら	P.12
10. 保証とアフターサービスについて	P.13
11. 仕様	P.14

安全にお使いいただくために(安全上の注意)

- ご使用前に、この「安全にお使いいただくために(安全上の注意)」をよく読み、正しくご使用ください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いいただく方や他の人々への危害や損害を未然に防止するものです。
- 注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱により発生することが予想されることを「危険」「警告」「注意」の3つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容となりますので、必ず守ってご使用ください。

危険及び、警告と注意

危険 取扱を誤った場合、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが、想定される危害の程度。

警告 取扱を誤った場合、死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度。

注意 取扱を誤った場合、傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される危害・損害の程度。
傷害とは、治療、入院、長期の通院を要さないケガ、やけど、感電などを指します。物的損害とは、家屋、家財及び家畜、ペット等にかかわる拡大損害を指します。

絵表示の意味

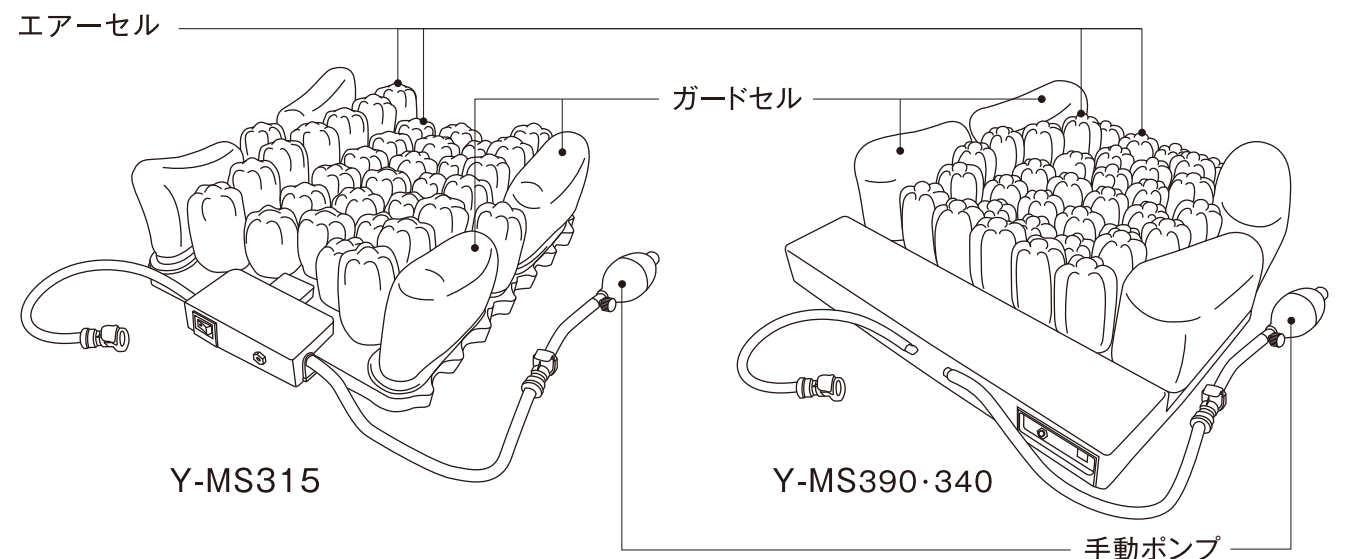
注意図記号	製品の取扱において、発火、破裂、高温などに対する注意を喚起するために用いています。
禁止図記号	製品の取扱において、その行為を禁止します。
指示図記号	製品の取扱において、指示に基づく行為を強制します。

万一、異常や故障が発生したときはすぐに使用をやめてください。
次のようなときは、そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに本体の電池をすべて抜いて、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

警告	!	万一、制御部等から発熱、異臭や異音がする等の異常が発生した場合は、直ちに使用を中止し販売店の点検を受けてください。
	🚫	本製品、電池などの改造、分解、修理は絶対にしないでください。火災、感電、ケガの恐れがあります。
	🚫📖	本製品に水や他の液体をかけたり浸したりしないでください。また、お風呂場などの水のかかりやすい場所や湿気の多い場所では使用しないでください。感電、故障の原因になります。失禁等が想定される場合には、別売りの防水カバーをご使用ください。
	🚫	身体が濡れたままでの使用は、絶対におやめください。感電、故障の原因になります。濡れた手で、電池の抜き差しは行なわないでください。感電の恐れがあります。
	🚫	幼児、お子様に、本製品の上で遊ばせたりしないでください。思わぬ事故の可能性あります。

注意	!	使用中に身体に異常が現れたり、感じたりしたときは、直ちに使用を中止し、医師、理学療法士、作業療法士等に相談してください。
		本製品は、突起物のない平らな座面に置いて使用してください。
		本製品を使用する前には、底付き手前検知センサーが正常に作動するか確認してください。(6ページ、5.底付き手前検知 参照)
		お手入れの際、必ず電池をはずしてから行なってください。
	🚫	本製品の上に立ったり、踏み台にしたり、重いものをのせないでください。特に、空気が入っていない状態では、クッション内部のセンサー部故障の原因となります。
		クッション本体に衝撃を与えたり、落下させたり、或いはクッションに物を落下させないでください。誤作動やパンクなどの故障の原因となります。
		刃物等で傷つけないでください。故障、火災の原因となります。
		機械油などの油成分が浮遊している場所や化学薬品などの成分が浮遊している場所では使用しないでください。変形、故障、発火の恐れがあります。ベンジン、シンナーなどの化学薬品で拭いたり、殺虫剤などを製品にかけないでください。
		火気の近くでは使用しないでください。また、たばこ等の火気を近付けないでください。本体のゴムは可燃物です。変形、故障、発火の恐れがあります。
		本製品は、車いす一人用クッションです。複数で座ったり、背もたれとして(製品を立てて)使用しないでください。
		むりに折り曲げたり、放り投げたりしないでください。変形させたり、強い衝撃や振動を与えますと故障、火災の原因となります。
		本体が汚れた場合は中性洗剤を薄めた液に、布を浸し固く絞ってふきとったのち、真水に浸し固く絞った布でふきとり洗剤を取り除いてください。水洗い、ドライクリーニング、オートクレーブ滅菌、オゾン洗浄等はしないでください。
	!	油性のローション、化粧液、軟膏、潤滑油、離型剤、治療薬、接着剤などが本体に付かないようにしてください。ゴムを直射日光にあてないでください、ゴムが劣化する恐れがあります。
	!	長時間使用しない場合は、電池をはずし、直射日光、高温、多湿、火気のある場所を避けて保管してください。クッションの上には、何も置かないでください。
	🚫👤	制御部、スイッチ、電池に水等の液体をこぼさないでください。雨天、降雪時、海岸、水辺では、水滴が機器内部に入らないよう注意してください。浴室・シャワー室など湿気の多いところでは使用しないでください。
	🚫🔌	万一水等でぬらした場合は、直ちに使用を中止し、水分をふき取り、完全に乾燥するまで使用しないでください。異常があった場合は、販売店の点検を受けてください。失禁等が想定される場合には、別売りの防水カバーをご使用ください。

1. セット内容



⚠ 注意
商品到着時に欠品、破損等が無いかご確認ください。欠品、破損があった場合は使用せず、直ちに販売店にご連絡ください。

2. クッションの設置及び向き

クッションは、写真 ① のように設置してください。着座したときに電源スイッチは、左側前面にあります。クッション本体の向きは、写真 ② ～ ③ を参考にしてください。専用クッションカバーの取手部に、「まえ」の表示を設けています。足が来る方が「まえ」、になります。



注意

一般的に、車いすにのる時はクッションにより、座面の高さが変化しますので、ご使用の際は、シート高、フット・レッグサポート、アームサポート、バックサポート等の調整を行なってください。

クッション本体の設置例

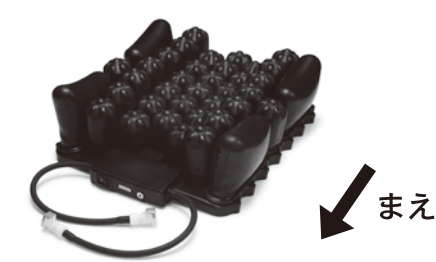


クッション本体の向き

② 390・340幅タイプ



③ 315幅タイプ



※専用布カバーのファスナーは、足に当たらないように側面に回すことをお勧めします。



注意

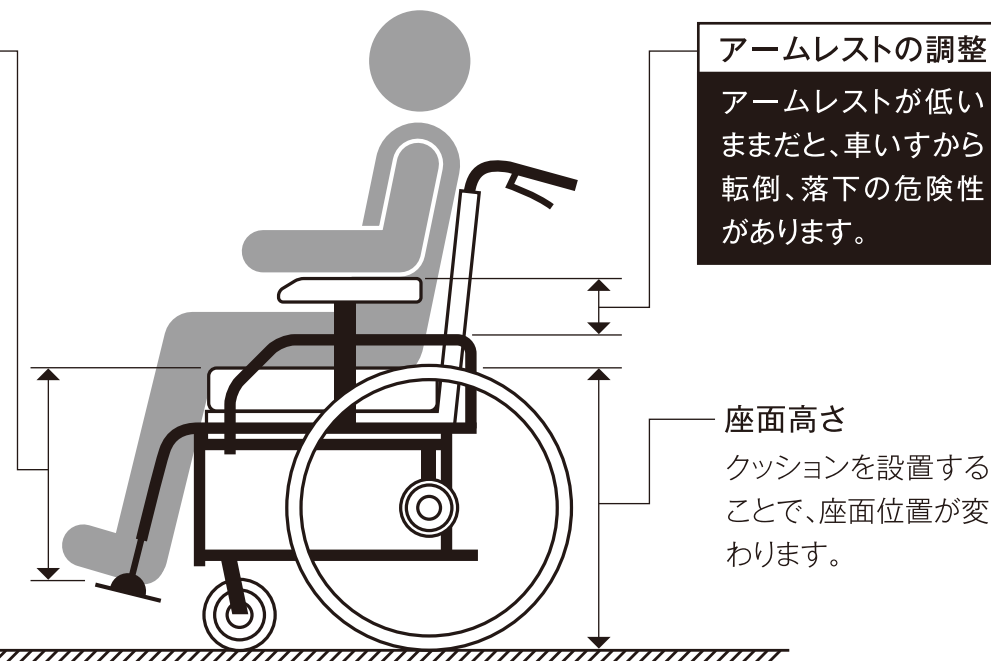
アームレスト、フットレストは、必ず医師、理学療法士、作業療法士等の専門家に確認のうえ調整してください！

フットレストの調整

フットレストが低すぎると、足の位置が安定しなくなり、極端に腿に圧力がかかり疲れの原因となります。フットレストが高すぎると、ずっとけ座りや円背(猫背)になる場合があります。また、膝が高いと血液の循環が悪くなる場合もあります。

アームレストの調整

アームレストが低いままだと、車いすから転倒、落下の危険性があります。



座面高さ
クッションを設置することで、座面位置が変わります。

3.電池

単三電池(単体電圧1.5V) 2本。電池ボックスがクッション裏面にあります。

※型番によって電池ボックスの位置が異なります。



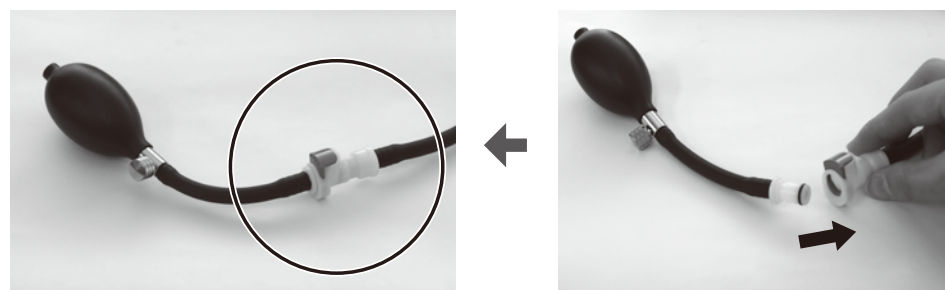
4.手動ポンプおよび接続カプラー

4-1 手動ポンプ

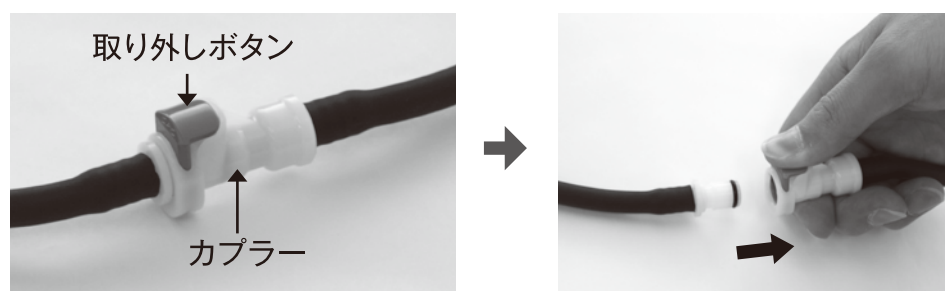


ネジを左に回すと、空気を抜きます。右に回し絞めこむと、空気の排出がとまります。

4-2 手動ポンプの取り付け方



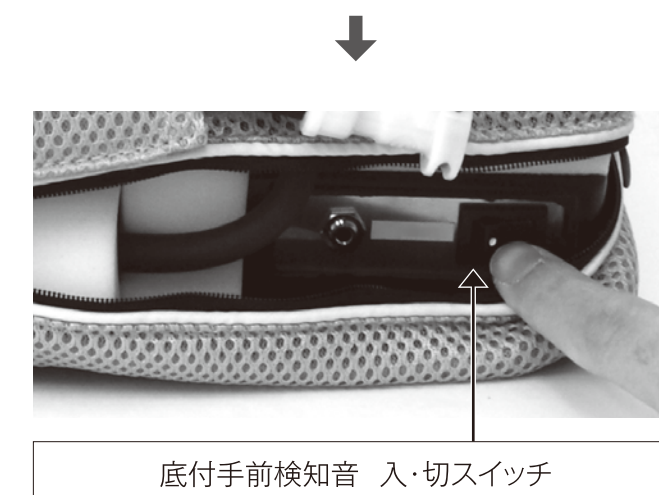
4-3 手動ポンプのはずし方



カプラーの取り外しボタンを押してください。
手動ポンプが外れます。

5.底付手前検知

※型番によって入・切スイッチの位置が異なります。



底付手前検知音 入・切スイッチ

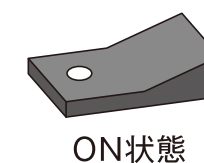
機能

底付手前検知音を入・切 します。白いポッチが下がった状態がスイッチONです。

ONの状態では、底付きを検知した場合 座面右側(利用者(着座者)が座った状態での右側)ではブザー音 ピピピピピピ

座面左側ではブザー音 ピーピーー

OFFの状態では、ブザー音は発音しません。



⚠ 注意

スイッチをOFFにした場合、少なくとも半日に一回は(個人差があります)ブザースイッチをONにして、底付していないことを確認することをお勧めいたします。
このスイッチは、映画館などでどうしても音の発音を避けたい場合を想定して設置しました。
通常は、スイッチONの状態で使用して、底付検知機能を使用してください。

確認方法

底付手前検知音 入・切スイッチを入(白いポッチが下がった状態)にします。次にエアセル内の柔軟ゴムをエアセル外側から押し、5秒後にブザー音が鳴ることを確認してください。(センサーには、5秒間の不感時間を設けています。)



6. 使用方法(空気調整方法)

メディエア スカイ セッティング方法

一旦クッション全体に空気を入れ、左右それぞれ空気を抜いていき、ブザー音で最低空気量を確認し、ブザー音が鳴らなくなるまで空気を入れ、さらに座位が安定する空気量をセッティングしていきます。

1 底付手前検知音 スイッチの確認

クッションカバーを開け、底付手前検知音 入・切スイッチをONにしてください。(白いポッチを下にする)



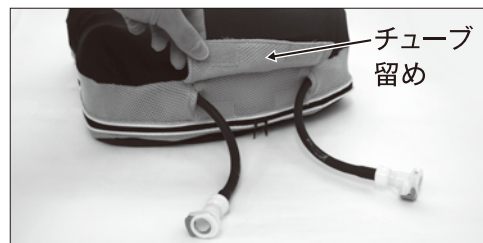
2 スイッチ動作および電池確認

カバーの上からエアセル内部にある柔軟ゴムを手で5秒以上押し、(柔軟ゴムの配置は、10ページ7-2エアセル取付方法を参照ください。)ブザー音が鳴ることを確認してください。ブザー音がしない場合は、電池が正しく入っているか確認の上、電池を新しいものと交換してください。



3 空気量調整の準備

ゴムチューブをクッションカバーのチューブ留めからはずしてください。



クッションに左右それぞれ空気を入れ、エアセルがかかるく張る程度全体を膨らませてください。



4 空気排気(利用者(着座者)が座った状態での右側)

クッションにゆっくり座ってください。(体重100kgまで使用可能ですが、90kg以上方は、医師、理学療法士等の専門家の指示に従ってください。)

右側のチューブに手動ポンプを取り付けてください。手動ポンプのバルブを開き、ブザーが鳴るまで空気を抜いてください。このとき、ご自身の体幹バランスに注意し、転倒などに気をつけてください。

空気を排気中に右側の底付手前を検知するとブザー音は、ピピピピと鳴ります。(ピーーピーーと鳴ったら、左側の底付手前を検知しています。)



クッションに座った状態で空気排気を行ってください。

5 空気封入(利用者(着座者)が座った状態での右側)

ピピピピとブザー音を確認したらポンプのバルブを閉める。ポンプを押しつぶして、ブザーが鳴り終わるまで空気を入れる。(ピーーピーーと鳴ったら、左側のチューブに手動ポンプを付替え空気を入れる)

6 空気量調整

ブザー音が止まったらさらに5回から10回程度(個人により調整ください)ポンプを押しつぶして空気を入れてください。

7 空気排気(利用者(着座者)が座った状態での左側)

左側のチューブに手動ポンプを取り付ける。ゴム球のバルブを開き、ブザーが鳴るまで空気を抜く。このとき、ご自身の体幹バランスに注意し、転倒などに気をつけてください。空気を排気中に左側の底付手前を検知するとブザー音は、ピーーピーーと鳴ります。

8 空気封入(利用者(着座者)が座った状態での左側)

ピーーピーーとブザー音を確認したら手動ポンプのバルブを閉める。ポンプを押しつぶして、ブザーが鳴り終わるまで空気を入れる。(ピピピピと鳴ったら、右側のチューブに手動ポンプを付替え空気を入れる)

9 空気量調整

ブザー音が止まったらさらに5回から10回程度(個人により調整ください)手動ポンプを押しつぶして空気を入れてください。

10 以上4から9を座位が安定し、ブザー音が鳴らなくなるまで繰り返してください。

11 手動ポンプをはずし、ポンプケースに収納してください。

手動ポンプをつけたままにすると、手動ポンプのバルブが開いて空気を知らない間に排出する恐れがあります。空気量調整後は手動ポンプをはずしてください。本体側の接続カプラーは、手動ポンプをはずすと空気が漏れない構造になっています。

12 これで空気量の調整は終わりです。

クッション使用中にブザーがなる場合は、体幹位置を変更したり、手動ポンプで空気を入れてください。表紙「底付検知お知らせブザー音について」を参照ください。



クッションに座った状態で空気封入を行ってください。



クッションに座った状態で空気排気を行ってください。



クッションに座った状態で空気封入を行ってください。



7.お手入れ方法

7-1 お手入れ方法(洗浄方法)

[専用布カバー]

専用布カバーをはずします。専用布カバー自体は、手洗いで洗濯することができます。詳細の洗濯方法は、専用布カバーについている「絵表示」と「お取り扱い上の御注意」をご確認ください。

[ウレタンスポンジ]

ウレタンスポンジは、水洗いしてください。乾燥は直射日光をさけて陰干ししてください。

ウレタンは黄色く変色する場合がありますが性能には問題ありません。

[クッション本体]

本体は水を絞った布で軽く拭いてください。薄めた中性洗剤、または、逆性石鹼(濃度2%以下)での拭き掃除は可能ですが、オートクレーブ滅菌、オゾン洗浄はできません。

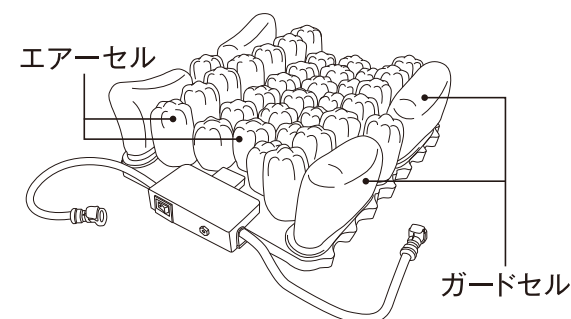
汚れがひどい場合

エアースセルをはずし、エアースセルのみを水洗いしてください。乾燥は直射日光をさけて陰干ししてください。本体ベース部分は水洗いしないでください。



エアースセルをはずす場合は、内部の底付き検知柔軟ゴムを傷つけないようにご注意ください。

傷付いたり、はずれたりした場合は、お買い上げの販売店に点検修理をご依頼ください。



エアースセルは水洗い可能



本体ベース部分は水洗い洗浄禁止

- 本体ベース部分は、底付き手前検知柔軟ゴムを傷つけないように、全体を水を絞った布で拭いてください。



底付き手前検知柔軟ゴム(エアースセル内)



本体ベース部分拭き掃除(例)

- 水分が完全に乾いた事を確認し、「10ページ、7-2 エアースセル取付方法」に従ってエアースセルを取付けてください。

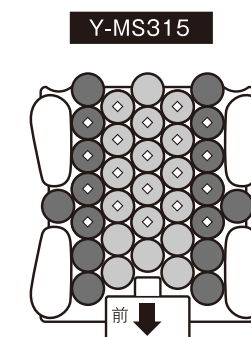
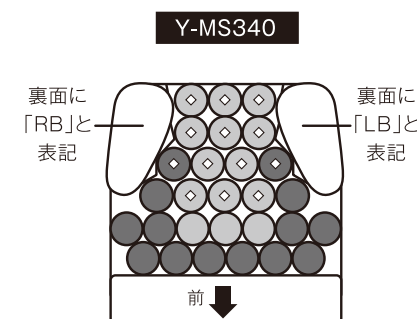
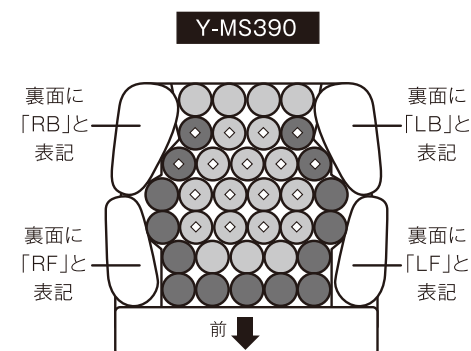
7-2 エアースセル取付方法

エアースセル標準配置

● 100mm
(長いエアースセル)

○ 75mm
(短いエアースセル)

◇ 底付き手前検知柔軟ゴム
(底付検知センサー)



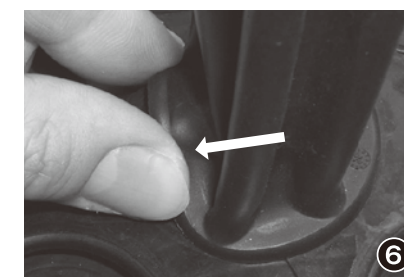
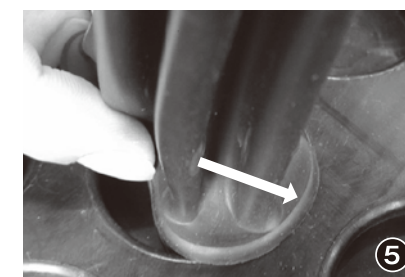
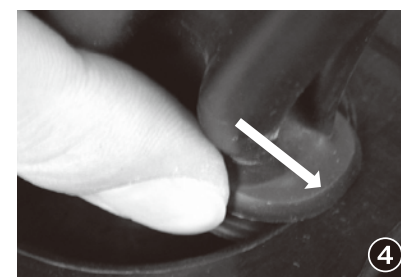
注意

エアースセルの配置を換える場合は、医師・理学療法士・作業療法士等の専門家に相談してください。

エアースセル取付手順

エアースセルを写真の要領で取付けてください。この時、鋭利な金物などは使用しないでください。

- ・エアースセルの底部を写真のように親指と人指し指で挟み込む。(写真 ① ② 参照)
- ・写真 ① ② の状態のまま、ベース凹部にエアースセルの凸部の先端を差し込む。(写真 ③ ④ 参照)
- ・そのまま矢印の方向にエアースセルを押し付けながら、エアースセルの持ち手を後方にずらす。(写真 ⑤ 参照)
- ・矢印の方向に力を入れ、はまっていない部分を取付ける。(写真 ⑥ 参照)

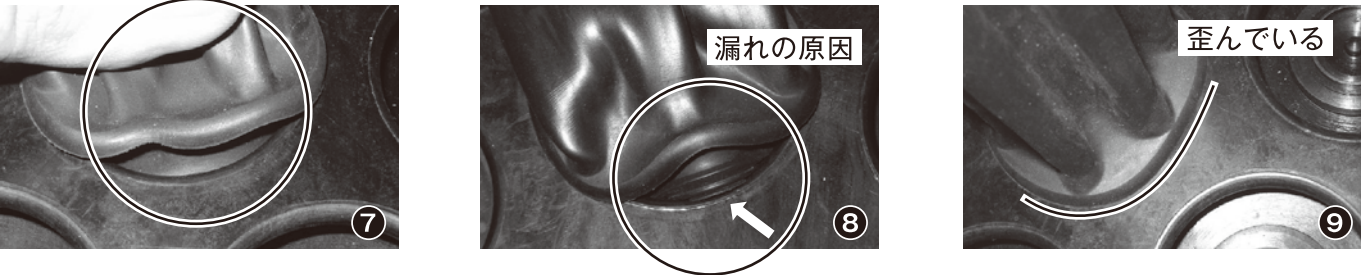


7.お手入れ方法

エアーセルの空気漏れ(例)

取付けが完了したら、本体電源スイッチを入れ、エアーセルが完全に膨らむことを確認してください。
取付けが不完全な場合、片方のグループのエアーセルが膨らみません。
改めてもう一度はめなおし、再度エアーセルが完全に膨らむことを確認してください。

少しエアーセルを斜めにして写真⑦のようにしわがないことを確認してください。
写真⑧や⑨のようにになっている場合は、再度はめ直してください。



8.保管方法

本製品を長時間使用しない場合は、電池を本体からはずし、直射日光、高温、多湿、火気のある場所を避けて保管してください。
特にクッションの上には何も置かないでください。底付き手前検知柔軟ゴムが変形し、故障の原因になります。

9.故障かなと思ったら

NO.	症状	考えられる原因	処置
1	ブザーが鳴る		ブザー音は底付き検知の音です。 以下に従い、空気を入れてください。
1.1	ピピピピ	底付き手前検知	右側に空気を入れてください。
1.2	ピーーピーー	底付き手前検知	左側に空気を入れてください。
2	ブザーが 鳴らない	電池がセット されていない	電池をセットしてください。5ページ「3.電池」参照。
		電池の寿命	新しい電池に交換してください。
2.1	柔軟ゴムを 押してもすぐに 鳴らない (しばらくすると鳴る)		本製品は、センサーに不感時間を5秒間設けています。 5秒後にブザー音が鳴れば正常です。
3	エアーセルが 膨らまない 空気が漏れる	エアーセルが 外れている	10ページ「7-2.エアーセル取付方法」を参照し、エアセルが 正しく取り付けられているか確認してください。

※エアーセルがパンクしている場合は、パッチ修理は行わず、エアーセルを新品と交換してください。
※エアーセルの根本を持つと、エアーセルが外れる場合があります。
再度、7-2エアーセル取付方法を参照に、取り付けてください。

10.保証とアフターサービスについて（必ずお読みください）

10-1 保証書

保証書に所定の事項をご記入の上、大切に保管してください。特に、お買い上げ日、販売店名の記載がないものは、保証期間内であっても、保証の対象にならない場合があります。

10-2 保証期間

お買い上げ日より3年間となります。専用布カバー、電池、ウレタンスポンジは、保証の適用外とさせていただきます。ただし、未使用時で製造上や輸送中に発生したと思われる破損は、保証の対象となります。取扱説明書に則り、正常な使用において故障した場合は、保証書をご提示いただき、販売店あるいは弊社に修理をご依頼ください。無償にて修理させていただきます。弊社が修理困難と判断した場合は、交換させていただきます。修理したにもかかわらず修理完了後3ヶ月以内に同一箇所、同一故障が発生した場合は、保証期間に関わらず無償にて修理させていただきます。保証期間内であっても二次的に発生する損失の補償は、無償修理の対象外とさせていただきます。

10-3 保証の適用除外となる場合

- (ア) 通常のご使用による消耗および、取扱不注意による破損、
取扱説明書に従わない使用方法をしたと判断された場合。 例) 専用布カバーの磨耗、破損
- (イ) 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失、破損。
- (ウ) 不注意、故意、または過失など誤って使用されたことによる破損。
- (エ) 保管上の不備、および弊社以外で行なった修理や改造等による破損。

10-4 有償修理

お客様の希望があり、修理によって商品の機能が維持でき、且つ、補修用性能部品の供給ができる場合に限り、有償にて修理を承ります。

10-5 補修用性能部品の最低保有期間

弊社は、本製品の補修用性能部品の原則製造打ち切り後5年間保有いたします。性能部品とは、その製品の性能を維持するために必要な部品です。
ただし、上記期間内であっても、代用部品を使用して修理する場合がありますのでご了承ください。

10-6 その他

ご使用中に普段と変わった状態になった場合、直ちにご使用を中止し、お買い上げの販売店に点検、修理をご依頼ください。

11.仕様

商品名・型番	Medi-Air Sky Y-MS390	Medi-Air Sky Y-MS340	Medi-Air Sky Y-MS315
外形寸法(単位:mm)	W390×D400×H110	W340×D352×H110	W315×D400×H110
エアーセル	材質:エラストマー サイズ(単位:mm):直径約48×高さ約75、直径約48×高さ約100		
ガードセル	材質:エラストマー サイズ(単位:mm):幅約70×高さ約100	材質:エラストマー サイズ(単位:mm):幅約50×高さ約100	
ベースマット	材質:特殊合成ゴム		
制御部ケーシング	材質:ステンレス		
電源	単三乾電池(単体電圧1.5V) 2本		
クッション本体質量	約4.4kg	約3.4kg	約3kg
専用布カバー	材質:伸縮性合成繊維(座面:抗菌防臭加工)		

オプション

防水カバー	材質:防水材コーティング伸縮性合成繊維(座面:抗菌防臭加工)
エアーセル	高さ約75mm、高さ約100mm
ガードセル	右前用(RF)、左前用(LF)、右後用(RB)、左後用(LB) Y-MS315用(GS)